

2022.3.25
発行

No.
48

まひらの保育



発行者/愛媛県保育協議会
会長/合田 史宣
作成者/総務広報部会
編集責任者/菊池 弥生

発行所/愛媛県保育協議会
松山市持田町三丁目8番15号
愛媛県社会福祉協議会内

コロナなんかには負けないぞ!



尾串保育園
(宇和島市)

「子どもの時間」

愛媛県保育協議会 会長 合田 史宣



人間は、成長と共に時間の流れを早く感じるようです。皆さんも、大人になって日々の時間の流れが早くなったと感じているのではないのでしょうか。時間そのものは早くなっていません。では、なぜ早く流れるように感じるのでしょうか。

おそらく、子どもの頃の経験は何でも初めてで、新鮮な心に残るものが多いのに対して、大人になってからの経験は、今までの経験を元にして動いていることが多いからではないでしょうか。大人になってから、初めての経験が少なくなるのは当然のことです。そのため、子どもの頃の感動を懐かしいと思うのでしょうか。

子どもの頃、人間の質的成長は多々ありました。逆上がりができるようになった、竹馬に乗れるようになった、泳げるようになった、歌が歌えるようになった等、毎日が成長の連続です。そのような日々が生きていることへの前向きな、大きな経験となっていたはずで。

越えるべき経験が多いほど、人生の時間は精彩に満ちています。ただ、経験と言っても、取り立てて何かを達成させるというわけではありません。綺麗な花を見かけた、とか散歩が楽しかったとか、そのような日常の一つひとつが成長に繋がるのです。

私たち保育に関わる者にとっては、そうした人生の経験を、子どもの心に残していくよう手助けすることが、大切な仕事です。大人になって子どもの頃を思い出すとき、どれだけ経験をしたかを思い起こすことが、人生そのものを豊かにさせるでしょう。現在、新型コロナウイルス感染症の流行によって、子どもたちの生活が単調になっている恐れがあります。日常生活の簡素化が経験の場を少なくしてはいけません。子どもたちが、どんな小さなことにも新しい経験ができるよう配慮しなければなりません。子どもの頃に輝かしいと思えるような生活を保証していくことが保育の役目でもあります。

子どもたちが大人になった時に、子どもの頃が懐かしく思える楽しい時代だと感じてもらえることを願って、日々の保育を行っていききたいと思います。

令和3年度の私たちの取り組み

令和3年度は、令和2年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症対策のため、オンラインで研修を実施しました。研修会に参加された方々の感想をご紹介します。

保育士等キャリアアップ研修②「幼児教育」

(宇和島市)尾串保育園 山下 真季子

今回の研修は、「子どもとは何か」「保育者の役割は何か」という点について改めて考える、貴重な機会となりました。

私は、現在4歳児を担当しています。子どもたちは何事にも意欲的で、とても好奇心旺盛です。時には友だちと意見がぶつかりトラブルになることもあります。そんな時は、一人ひとりの話に耳を傾け、その内面を捉えることができているか、物事を多方向から俯瞰して見ることができているか等、日々の保育を振り返りながら研修を受けることができました。

具体的な事例では、友だちと意見がぶつかった際に、保育士の対応次第でその後の展開が違ってくるといふことを学びました。また、一つの遊びに対して、答えややり方を決めずに子ども自ら工夫したり挑戦したりするなど、子どもたちが試行錯誤することができる環境を整えていくことが大切だと学びました。

今、大切にしている「主体的・対話的で深い学び」に繋げていくためにも「子どもが、今、何を考え、何をしようとしているのか」を汲み取ることができ、専門家としての視点が大切です。これからも、一人ひとりを深く理解しようとする姿勢を大切に、子どもたちの育ちを支えていきたいと思えます。

保育士等キャリアアップ研修③「障がい児教育」

(西条市)わかば保育園 森利恵子

この分野の受講は初めてでした。今振り返ると、以前の私の保育は、障がいのある子どもを周囲に無理矢理合わせてしまっていたように思います。子どもにとっても保育士にとっても大変で、当時は一人で保育をする責任の重さのために余裕がなく、時間に追われていつもイライラしていました。そのような私を支えてくれたのが、担当のクラスの子どもたちでした。

「T君を呼んでくるね。」「T君のお着替え手伝ったよ。」と率先してお世話してくれたことで私たちが保育士も笑顔になり、何よりもT君が嬉しそうな顔をしていたのが忘れられません。今思えば、あの子どもたちの優しさこそが共生社会への小さな一歩だったように思います。

今回研修を受講して、当時の私にもっと子どもの良いところを目を向ける余裕があれば、T君もより楽しい園生活を過ごせたかもしれない、そう思うと後悔してもしきれません。

私は、研修をとおして共生社会の担い手を育む必要性を学びました。皆が障がいのある子どもにも歩み寄ることができれば、様々な人と交流することができる豊かな心が育つと思えます。

近年、核家族化に伴い相談相手がおらず、育児の責任は親にあるという思い込みで、本音が言えない保護者もいます。そのような方に対して「そんなに頑張らなくていいよ、一緒に考えていこうね。」と言える保育士になりたいと思います。そして、地域の専門機関とも連携しながら、保護者支援をしたいと思えます。

保育士等キャリアアップ研修④「食育・アレルギー対応」

(今治市)常盤保育所 渡部 佳那

今回の研修を受講して、食育のあり方やアレルギー疾患を持つ子どもへの対応等について、詳しく学ぶことができました。また、アレルギー疾患を持つ子どもがいたとしても、皆が楽しめる食育を行うことの大切さやアレルギー反応が出た場合の正しい対応が迅速にできるよう、しっかりと知識や技術を身につけたいと思いました。

アレルギー疾患を持つ子どもに対するイメージとして「アレルギーがあるから何かが制限されるのは当然のこと」というような先入観を持っている方も多いかもしれません。しかし、その考えは子どもへの気持ちにも負担を与えてしまいます。何か制限されるのが当たり前と思つてではなく、アレルギーがあることを考慮しながら少しでも周囲の子どもたちとの差異を少なくできるように考え、同じように楽しめる食育をしたいと思えます。

また、食育とは、保育所の中だけで行うものだと思っていました。家庭や地域等と連携して食育の環を繋ぎ広げていくことが期待されていることも学びました。コロナ禍ではそういった連携が取りづらくなっていますが、今できることを考えながら、保育所の機能を活かした取り組みができるようになっていきたいと思います。

私は、今までアレルギー疾患を持つ子どもの担任をしたことがありません。しかしながら、近年、アレルギー疾患を持つ子どもが増加している中で、どのような工夫ができるのか、自分なりにしっかりと考えていきたいと思います。



保育士等キャリアアップ研修「⑤保健衛生・安全対策」

(松山市)浮穴保育園 佐伯 寛子

今回の研修を受講して、新型コロナウイルス感染症の流行から、手洗い・消毒・ソーシャルディスタンス等は習慣づいたものの、乳幼児期は衛生対策を十分に行うことが難しく、感染症にも罹患しやすいことがわかりました。また、感染症に罹患すると重症化しやすいため、新型コロナウイルス感染症だけでなく、ロタウイルスや手足口病、ノロウイルス等、様々な感染症を理解し、感染経路を予測した上で、日々の保育を行う大切さを学びました。今までわかっていたようでわかっていなかった感染症の特徴や罹患した子どもの登園の目安等、知っておくべき知識がたくさんありました。保護者の中には子どもが経験したことのない感染症に罹患し、不安を感じている保護者も多いため、気持ちに寄り添い学んだことを正確に伝えられるようになりたいと思います。

今回の研修でも印象深かったことは「リスク」と「リターン」です。例えば段差の多い場所では、乳幼児期の子どものとっては転倒などの「リスク」がある一方で、昇り降りすることで力がつきバランスをとる力も身につく等、「リターン」があります。危険だから避けようとするのではなくどのようなリスクがあるのか理解し、そのための対策はどのようなものがあるかを考えた上で、子どもたちの喜びリターンのある活動を取り入れていく重要性を学びました。見えていない部分まで見抜ける洞察力や先を見通し考える想定力を身につけ、今後の保育に活かしていきたいと思えます。

保育士等キャリアアップ研修「⑥保護者支援・子育て支援」

(西条市)さくら保育園 明神 茉莉

保育者は子どもに対しての援助だけでなく、保護者に対する支援も同時に行う必要があることを学びました。現在の子育てに関する問題は、複雑化・多様化しており、保育者は多角的な視点で支援を行っていかねばなりません。多角的な視点で支援を行うということは、支援をする上での基本的な姿勢であることから抽象的ですが、まずすべきことは、園と連携可能な地域の公的・非公的の社会資源を把握することだと理解しました。今回研修を受講して、私は社会資源の把握が十分にできていないと実感しました。様々な社会資源の特性把握に努め、公的・非公的の社会資源を組み合わせ、ニーズに対して安定かつ柔軟な対応をしていきたいと思えます。

日々の保育や保護者支援とおして、私たち保育者は子どもの最善の利益を保障していかねばなりません。子どもたちは大人のように、自分の権利を主張したり侵された権利を再度自分のものにしたたりすることが難しい場合もあります。子どもたちが持つ権利を能動的なものとして保障するべく、子どもたちの些細な変化を見逃さず、子どもの権利を擁護することができるよう保育士となれるよう自覚をもち、日々の保育を行っていききたいと思えます。



保育士等キャリアアップ研修「⑦マネジメント研修」

(西条市)みどり保育園 山本 紘子

私の中でのリーダーシップとは「人の先頭に立つて集団をまとめ引つ張っていく」というイメージでしたが、今回の研修を受講して「縁の下での力持ち」と言うように、周囲を支えることが大切であると学びました。

リーダーは共通の目標を作り効果的にコミュニケーションを図ることで集団は目標を共有し、実践することができると言うことがわかりました。当園では毎年、年度初めに園のねらいや目標について話し合う機会があります。一度作ってしまったからといって終わりにはせず、常に新しく更新していくことが大切で、しっかり自分なりの意見を言えるようになりたいと思えました。

また、職員間での信頼関係を築いていくためにも、相手の話を相手の立場に立ってしっかりと聞くようにすることや相手の気持ちにしっかりと共感し、お互いの気持ちを話して対話していくこと等、自分自身の日々の取り組みを具体的に振り返ることもできました。

今回の研修を通して自分自身を振り返り、自分のことをもっと理解して、今までのいろいろな方に支えてもらったことを感謝して、これからは自分も人の支えになりたいと思えました。学んで終わりにはせず、学び続けることの大切さを何度も伝えてもらったことを念頭に、子どもたちの成長を見守り続ける中で、自分自身も成長していけるような保育者になりたいと思えます。

保育士等キャリアアップ研修「⑧保育実践研修」

(今治市)上浦認定こども園 山岡 陽子

今回の研修は、自分自身の日々の保育を反省し見つけ直すよい機会になりました。

安全面については、リスク(危険)とリターン(子ども)の育ちの両面を捉え、子どもが主体的に環境に関わるようにすることの大切さを学びました。振り返ってみると、私は普段リスクにばかり目を向けがちだったと思います。安全に配慮しつつも豊かな遊びが多様に展開されるような環境づくりをしていきたいです。

次に、表現に関して、YOUメッセージ(一方的な評価)ではなく、Iメッセージ(主語が「私」にする)と相手と対等の関係になるということを学び、はっとしました。今まで子どもに「すごい」「上手」と言っていたが多かったですが、これからは「これ好きだな」「うれしい」と感じたことを素直に伝えていこうと思えます。また、「感じる」「考える」「気づく」「表現する」のプロセスが大切であるということもわかりました。

今回の研修では、実践例も多く紹介され様々な発想や考えに触れることができ、保育をしていく上で大変参考になりました。

今回の研修をとおして感じたことは、私たち保育者の考え方、姿勢、態度等の人的環境が、様々な面で子どもたちに大きな影響を与えているということです。そのことを常に意識しながら人的環境としての自分をさらに磨き、子どもたちが豊かな経験を積み重ねていけるよう支援していきたいと思えます。



令和3年度愛媛県教育 保育施設長研修会

(四国中央市)中曽根保育園 藤本 多美栄

「保育者の実感が大切!ちよっと気になる子ども」のSOSを受講し、子どもたちの疲れやすい、しんどそう、眠りにくく起きにくい等の気になる姿は、スマートフォンやコンビニエンスストア等、現代社会の環境が大きく影響しており、子どもたちを取り巻く環境を保護者とともに変えていくことが大切だと思いました。そのために生活リズムを整え「早寝・早起き・朝ご飯」を推奨してきましたが、スローガンのような伝え方だけでなく、講演の中にもあった「光・暗闇・外遊び」のように少し頑張ればできそうだと思うような伝え方をすることで、意欲を持ち取り組みやすいということを実感しました。外で元気に遊び、ワクワクドキドキする遊びの工夫や環境づくりに取り組んでいきたいと思えます。

「園が担う防災計画と地域連携について」の講義では、特に印象に残ったことが二点あります。一点目は、痛ましい事故を二度と繰り返さないようニュースや報道、研修会等で見聞したことから大切にすべき内容を常にアップデートし、日々の点呼や確認、職員間の連携を見直し、子どもの命を守るという意識を職員間でしっかりと確認し合うということです。

二点目は、園の防災計画が園の実態に即した具体的な計画として機能しているのか確認しながら訓練を行っていくということです。事業継続計画(BCP)を見直し、地域と連携して災害発生から通常保育ができるようになるまでの見直しをしっかりとって、取り組んでいきたいと思えます。

今回の研修を通して、施設長として子どもたちの成長や命を守るための計画を作成し、それを達成するための具体的な行動を、日々の保育の中に根付かせることの大切さを学ぶことができました。今後職員同士声を掛け合い、学んだことを保育に活かしながら取り組んでいきたいと思えます。

令和3年度四国ブロック保育組織
次世代リーダー研修会及び保育士会リーダーセミナー

(松山市)久米保育園 廣川 智江

保育所等における幼児教育のあり方の講義を受講して「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の大切さを再確認しました。小学校に接続するために幼児教育の理念・制度を幼保小で共通理解した上で、環境をとおして行う教育を基本とし、子どもの主体的な活動が確保されるよう保育士が保育の質を向上させていくことが大切であると感じました。

今後は、小学校と「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を共有する等の連携を図り、小学校との円滑な接続を図るよう努めていきたいと思えます。保育所は「生きる力」の基礎を形成し子どもたちの生涯にわたる人間形成の基礎を培う、普遍的かつ重要な役割を担っているため「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえて、一人ひとり意図的・計画的に保育をしていこうと改めて思いました。

発達障がいのある子どもへの支援の講義では、子どもたちの行動には全て意味があることを学びました。私たちは、日常生活の中で様々な感覚を同時に働かせていますが、障がいのある子どもにとっては、感覚刺激を適切に処理することが難しく、そのことが行動に影響してしまいます。そのため、何が原因で、なぜその行動をするのか理由を推測し、仮説を立て、支援の優先順位を設けて考察することが大切であると学びました。

より良い支援を行っていくためには、子どもたち一人ひとりの個性を理解し、子どもの気つきを保障し、それぞれにあった課題を設定して、その目標を達成することで、子どもたちが楽しんで生活できるように支援していきたいと思えます。

「働き続けやすい職場環境について」

1 【調査目的】

本会調査研究部会では、働き続けやすい職場環境について研究することを目的に、現場での経験年数が4年目から10年目までの職員を対象に調査を行った。

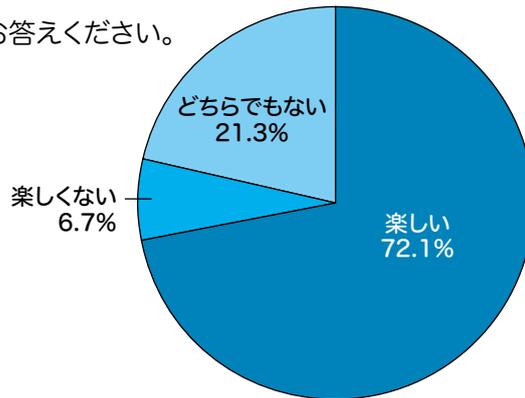
2 調査対象&サンプル数

問1 令和3年11月1日現在の情報をお答えください。(複数回答不可)

①性別		②年齢		③保育士として現場で働いた通算の経験年数		④勤務する職場の設置区分		⑤雇用形態		⑥担当について	
男性	11	20代	183	4年目	42	公立	188	正規	249	一人担任	77
女性	304	30代	90	5年目	65	公設民営	15	非正規	66	複数担任	205
		40代	42	6年目	64	私立	112			加配保育士	13
				7年目	45					フリー	20
				8年目	32						
				9年目	33						
				10年目	34						
合計(名)	315	合計(名)	315	合計(名)	315	合計(名)	315	合計(名)	315	合計(名)	315

3 アンケート結果

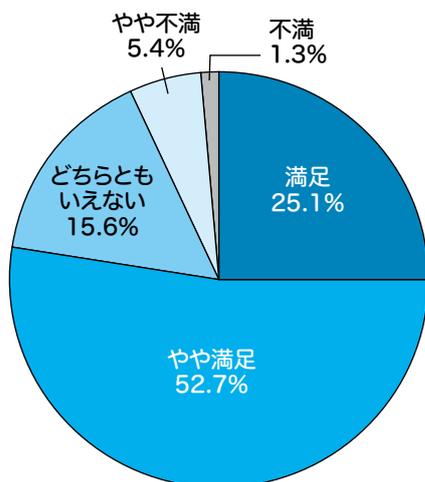
問2 現在の仕事についてお答えください。(複数回答不可)



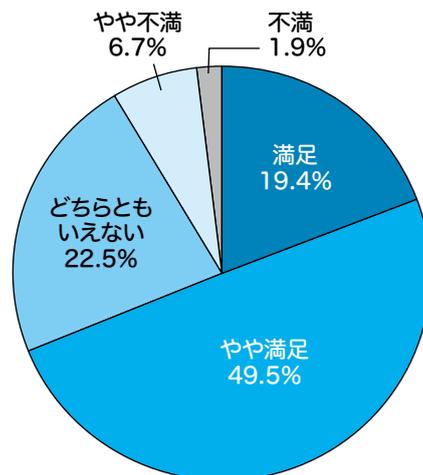
問3 職場に対する満足度についてお答えください。(複数回答不可)

「満足」と「やや満足」の合計が高い順に、「やりがい」(77.8%)、「職場の方針」(68.9%)、「人間関係」(68.3%)、「休暇」(57.8%)、「設備」(53.1%)、「収入」(21.9%)となった。

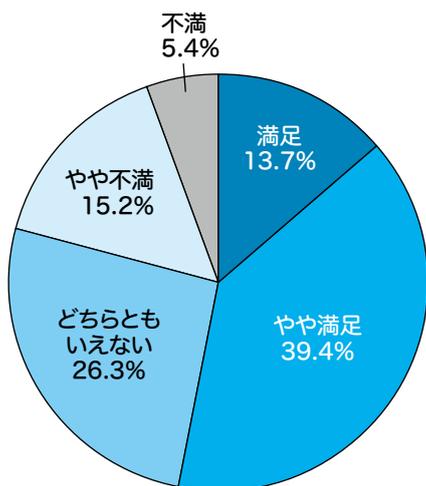
①保育士としてのやりがい



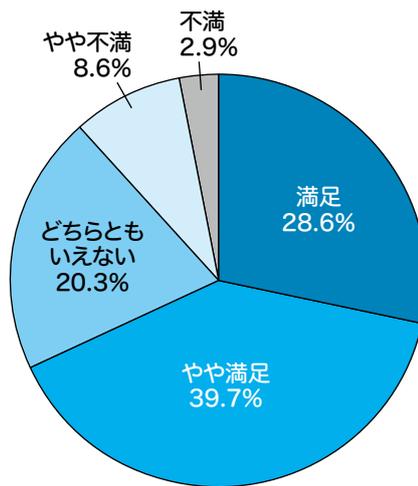
②職場の方針



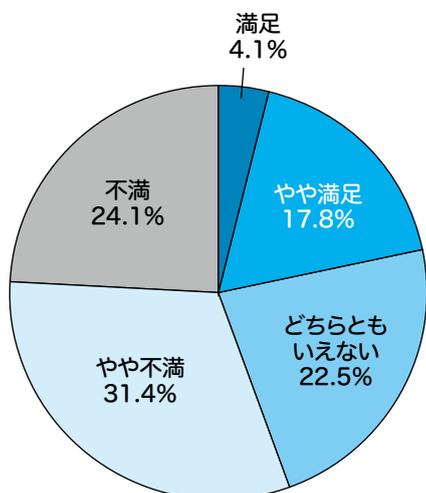
③設備



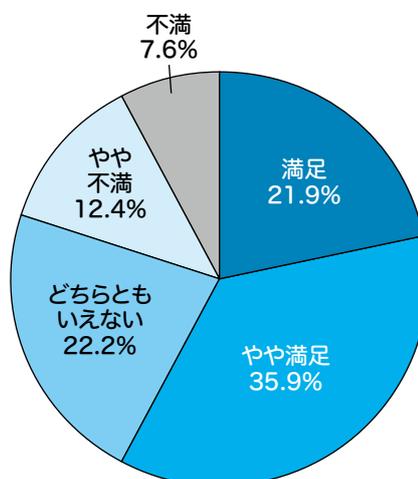
④職場の人間関係



⑤収入



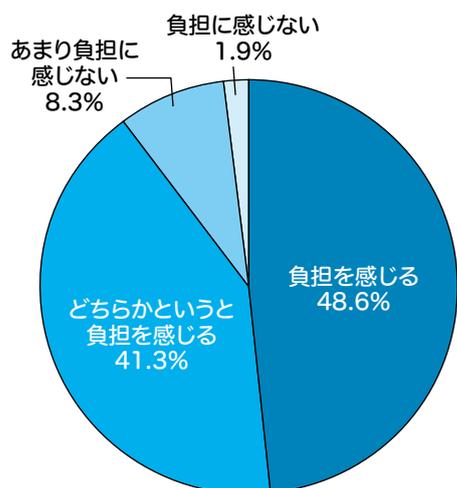
⑥休暇の取得状況



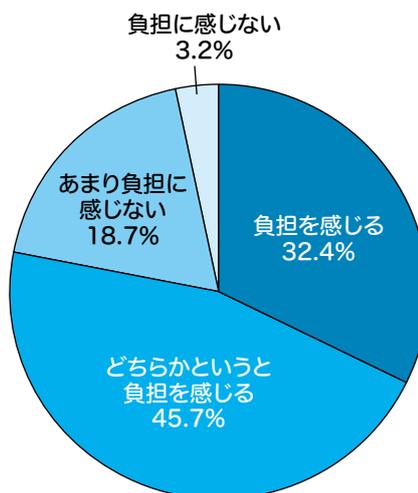
問4 業務の中で負担に感じることをお答えください。(複数回答不可)

「負担を感じる」と「どちらかという負担を感じる」の合計が高い順に、「書類の作成」(89.9%)、「行事の運営」(78.1%)、「研修会」(61.3%)、「保護者対応」(54.2%)、「人間関係」(37.8%)、「清掃」(37.5%)、となった。令和2年度に新任職員を対象に実施した調査と比較すると、すべての項目で負担を感じている職員の割合が上昇した。

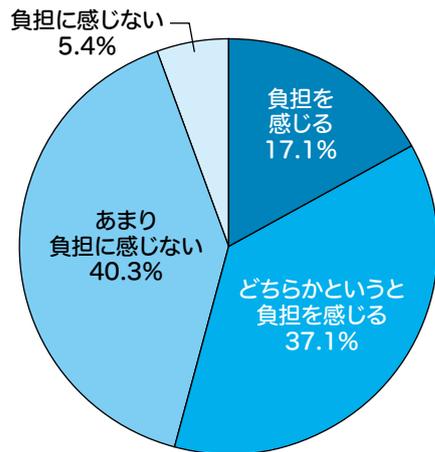
①書類の作成



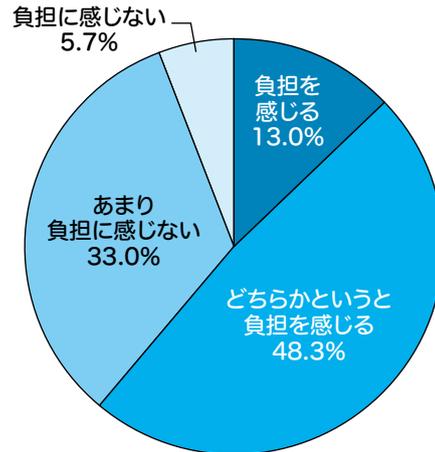
②行事の運営



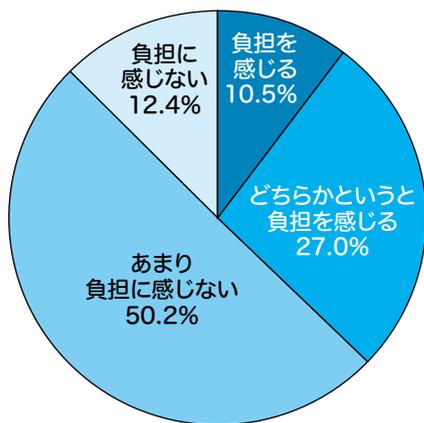
③保護者対応



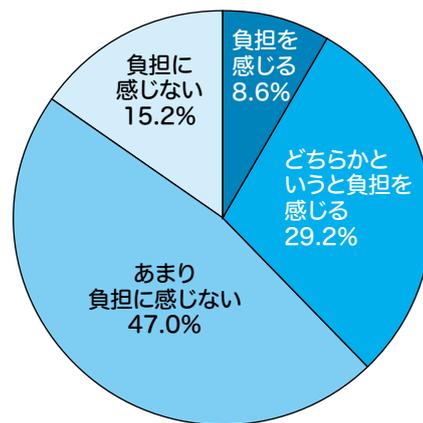
④研修会



⑤清掃(施設内清掃・除草作業等)

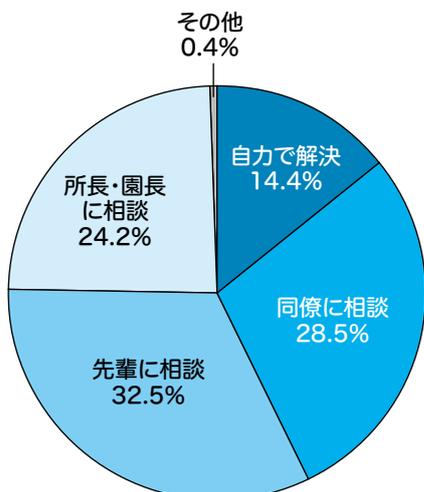


⑥職場の人間関係



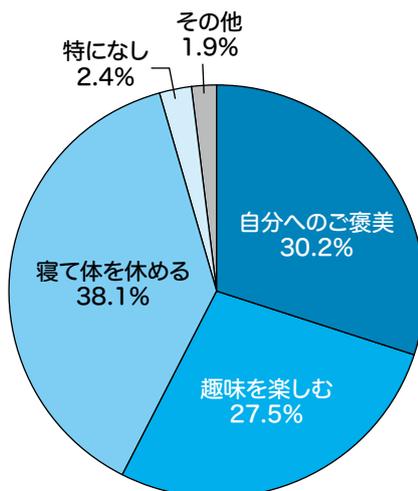
問5 仕事をする上で困った時の対応についてお答えください。(複数回答可)

「先輩に相談」(32.5%)、「同僚に相談」(28.5%)、「所長・園長に相談」(24.2%)、「自力で解決」(14.4%)となった。先輩や同僚等、同じ悩みを共有することができる身近な人に相談している職員が多いことがわかった。



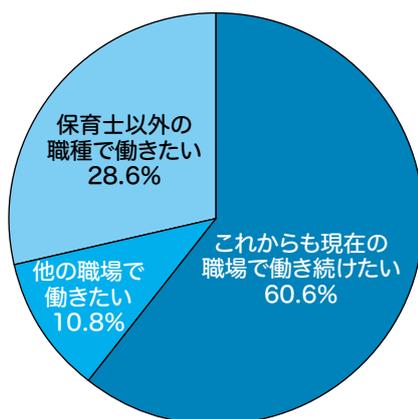
問6 あなたが「明日も子どもたちと楽しく遊ぶ」ためにしている、気分転換法やリフレッシュ法はなんですか？(複数回答可)

「寝て体を休める」(38.1%)が最も多く、「自分へのご褒美」(30.2%)、「趣味を楽しむ」(27.5%)となった。



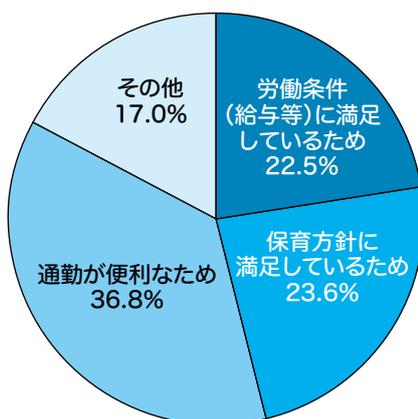
問7 今後の見通しについてお答えください。(複数回答不可)

「これからも現在の職場で働き続けたい」(60.6%)が最も多く、「保育士以外の職種で働きたい」(28.6%)、「他の職場で働きたい」(10.8%)となった。



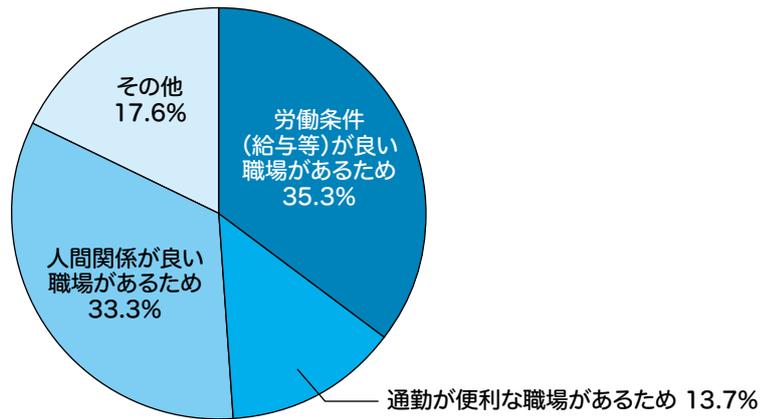
問8 問7で「これからも現在の職場で働き続けたい」を選んだ方は理由をお答えください。(複数回答可)

「通勤が便利のため」(36.8%)が最も多く、「保育方針に満足しているため」(23.6%)、「労働条件に満足しているため」(22.5%)となった。



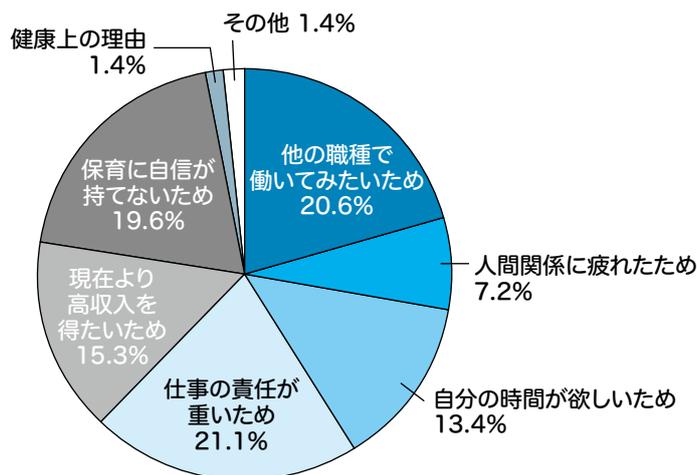
問7で「他の職場で働きたい」を選んだ方は理由をお答えください。(複数回答可)

「労働条件が良い職場があるため」(35.3%)が最も多く、「人間関係が良い職場があるため」(33.3%)、「通勤が便利な職場があるため」(13.7%)となった。



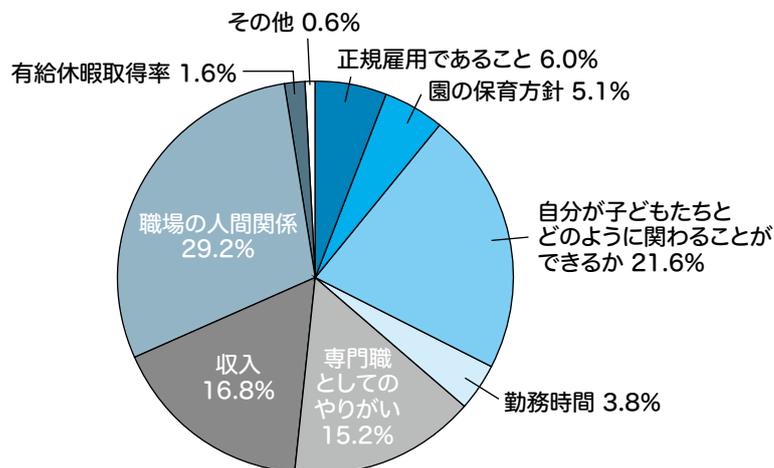
問7で「保育士以外の職種で働きたい」を選んだ方は理由をお答えください。(複数回答可)

「仕事の責任が重いため」(21.1%)が最も多く、「他の職種で働いてみたいため」(20.6%)、「保育に自信が持てないため」(19.6%)となった。



問9 保育士として働く上で最も重視することをお答えください。(複数回答不可)

「職場の人間関係」(29.2%)が最も多く、「自分が子どもたちとどのように関わることができるか」(21.6%)、「収入」(16.8%)となった。



4 まとめ

【経験年数別の今後の見通し】

	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目	9年目	10年目	
◎これからも現在の職場で働きたい	101	79	62	26	35	40	31	19	22	18	人
	83	74	64	60	55	63	69	58	69	53	%
▲他の職場で働きたい	10	13	17	2	7	9	4	6	1	5	人
	8	12	18	5	11	14	9	18	3	15	%
×保育士以外の職場で働きたい	11	15	18	15	22	15	10	8	9	11	人
	9	14	19	35	34	23	22	24	28	32	%
回答者数	122	107	97	43	64	64	45	33	32	34	

- ◆令和2年度に新任職員(3年目まで)を対象に実施した調査では、1年目の職員は83%が「これからも現在の職場で働きたい」と答えたものの2、3年目になるにつれて割合が低下し、3年目の職員では64%となった。また、「他の職場で働きたい」「保育士以外の職種で働きたい」と答える職員も年々増加した。
- ◆4年目以降の職員については、おおむね60%前後が「これからも現在の職場で働きたい」と答えた。「他の職場で働きたい」と答えた職員には経験年数によるばらつきがみられ、6年目、8年目、10年目で高くなった。また、「保育士以外の職種で働きたい」と答えた職員は4年目で大きく増加し、その後徐々に低下したが、9年目、10年目になると再び増加した。
- ◆他の職場や職種への転職を希望する理由としては、新任職員(3年目まで)では「人間関係」が多かったが、4年目以降で「他の職場で働きたい」と答えた職員では、「現在より良い労働条件(給与)で働きたい」と答えた職員が多かった。一方、「保育士以外の職種で働きたい」と答えた職員では、「保育に自信が持てない」「仕事の責任が重い」と答えた職員が多かった。このことから、経験年数が増すにつれて転職を希望する理由も多様化する傾向にあることがわかった。
- ◆職場のどのようなことに負担を感じるかについては、「書類の作成」を挙げた職員が最も多く(89.9%)、「行事の運営」(78.1%)、「研修会」(61.3%)、「保護者対応」(54.2%)となった。

まず注目したいのが、3年目から4年目にかけて回答者数が半減した点である。この際「他の職場で働きたい」と回答した職員も大きく減少していることから、この期間に転職した職員が多かったことが予想される。また、同じ職場で働き続けている職員も、3割以上が「保育士以外の職種で働きたい」と回答しており、何かしら不満を抱えながら仕事を続けている職員が多いことがわかり、何らかの対策が必要と感じる。

経験年数4年目から10年目の職員が具体的にどのようなことに不満を抱えているかについては、「収入」の満足度がわずか21.9%と、他の項目と比較して極端に低い。これは、令和2年度に新任職員を対象に実施した調査から19.2%も下落しており、国の処遇改善に向けた取り組みにも関わらず、依然として現場の職員の要望を

満たすに至っておらず、引き続き改善に向けた働きかけが必要であることを示している。

また、経験年数9年目、10年目で「保育士以外の職種で働きたい」と考える職員が増加しているが、9年目、10年目という4年制大学卒業者では30歳、31歳、短期大学・専門学校卒業者では28歳、29歳である。本会の会員構成を見ると、早い施設では30歳前後から主任保育士となる職員がいることから、この時期における職場での立場の変化が職員の心境にも影響を与えていることが予想される。

令和2年度の実態調査も踏まえると、新任職員に対しては離職や転職の最も大きな原因である人間関係を円滑にするために、コミュニケーションを意識した支援や仕組みづくりが必要で、4年目以降の職員に対しては、将来を見据えた労働環境の整備や魅力あるキャリアプランを示すとともに、職場のリーダーとして活躍するために必要な知識やスキルの習得を支援する必要があると考えられる。

また、多くの職員が負担を感じている「書類の作成」や「行事の運営」、「研修会」も効率化を図り、負担軽減に努める必要がある。一般的に業務量の増加に伴い労働時間も増加し、職員にかかる身体的・精神的負担も大きくなる。余裕のなさは心身の不調や人間関係への悪影響にもつながりかねないことから、ICTの活用や日常業務の見直し等、一層の環境整備が求められているのではないだろうか。





おすすめのほん



ぱんつくったよ。2



【作】平田 昌広
【絵】平田 景
【発行】(株)国土社

「ぱん、つくったよ。」→
「ぱんつ、くったよ。」
「しっかりおけ、つかみましょう。」→
「しっかりおけつ、かみましょう。」
のように、ことばの区切りを変える
と意味が変わる楽しい絵本です。



はなをくんくん



【作】ルース・クラウス
【絵】マーク・シーモント
【訳】きじま はじめ
【発行】(株)福音館書店

冬の森の中、雪の下で動物たちは冬眠をしています。野ねずみも、くまも、小さなかたつむりも…。でも、突然みんなは目を覚ましました。はなをくんくんさせています。みんなはなをくんくんさせながら、雪の中をかけていきます。みんなとまって、笑って、踊りだしました。「ゆきのなかにおはながひとつさいてるぞ!」やわらかいタッチの美しい絵と、詩のような文で、自然の摂理と喜びをやさしく子どもに語りかけます。

かいじゅうたちのいるところ



【作】モーリス・センダック
【訳】じんぐう てるお
【発行】(株)富山房

文章はリズムカルで歯切れがよく、画面いっぱい描かれたかいじゅうたちは怖そうで、そのくせユーモラスです。あたたかな場所に帰ることができる結末は、子どもたちを安心させます。絵も楽しめます。なっとうだけに「ねばれよ ねばれよ ねば一ぎぶあつぶ!」運動会時期におススメです。



※令和3年度 保育問題対応協力金 合計 860,700円

ご協力ありがとうございました。

今年度、皆様にご協力いただいた「保育問題対応協力金」は上記のとおりとなりました。本協力金は、全国保育協議会へ送金し、保育制度の充実強化を目指して活用させていただきます。